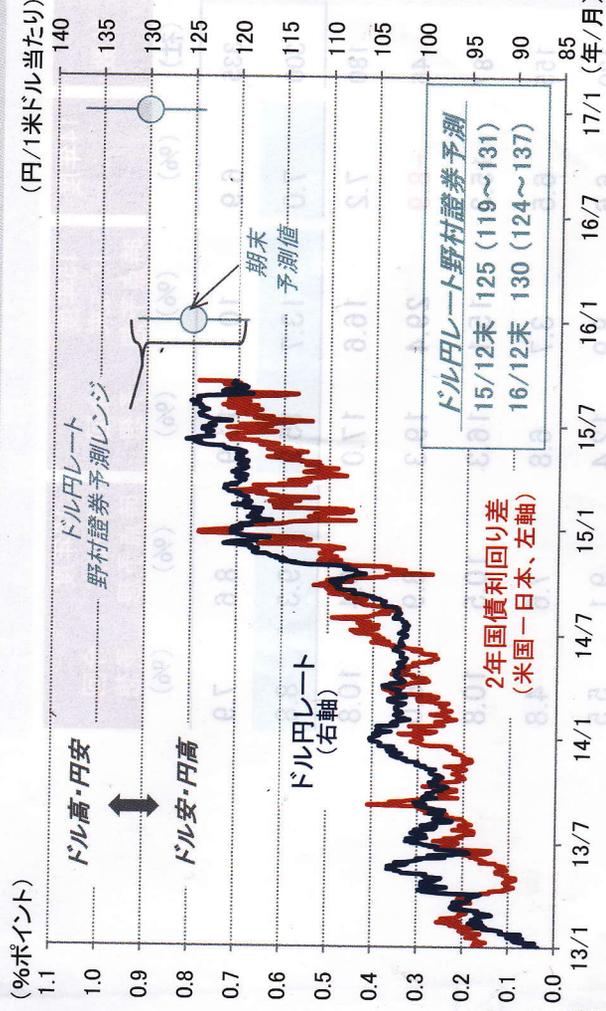
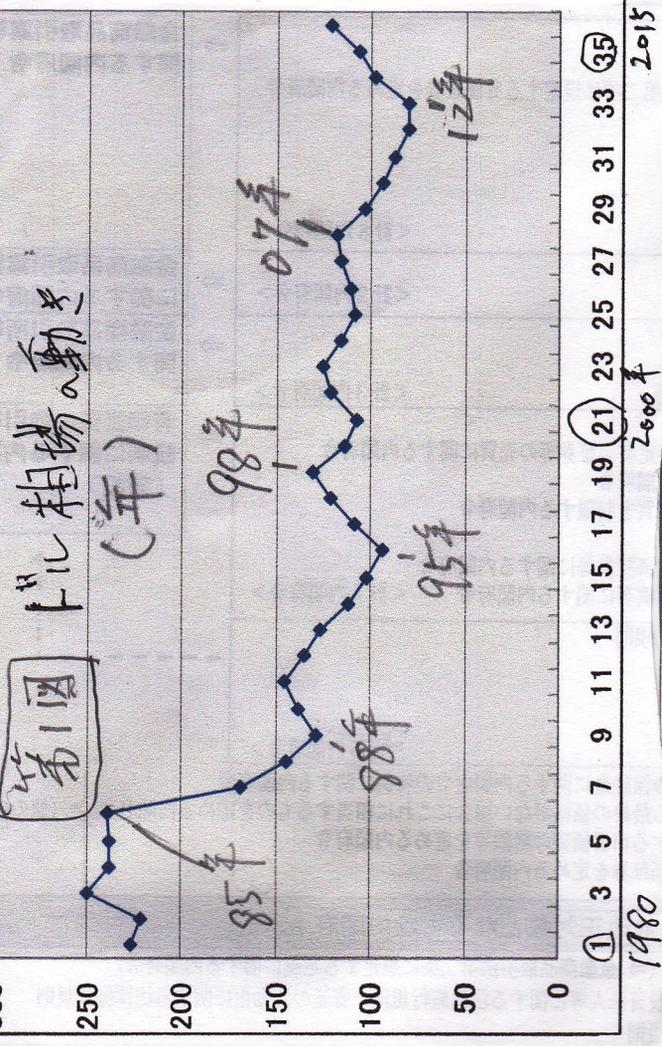


第3図 ドル円レートと米日短期金利差

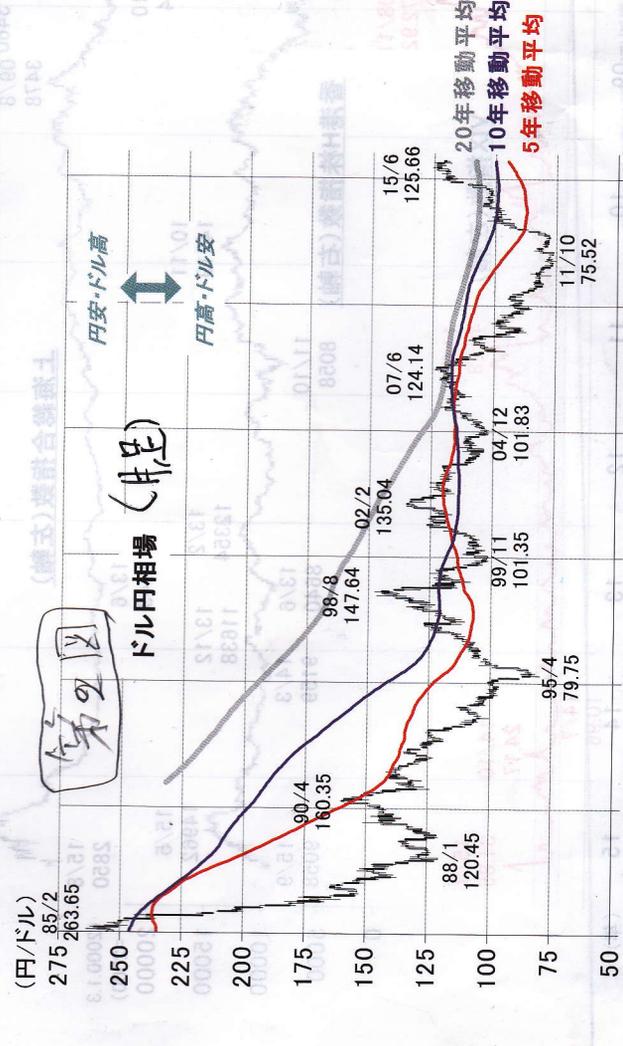
8月下旬以降の円高は一時的で、米利上げにかけて円安継続の見通し
 8月下旬に、短期的な円高が発生したが、中期的には金融政策の方向感の違いを
 織り込み、米日金利差の拡大から、円安・ドル高が継続すると予想される。

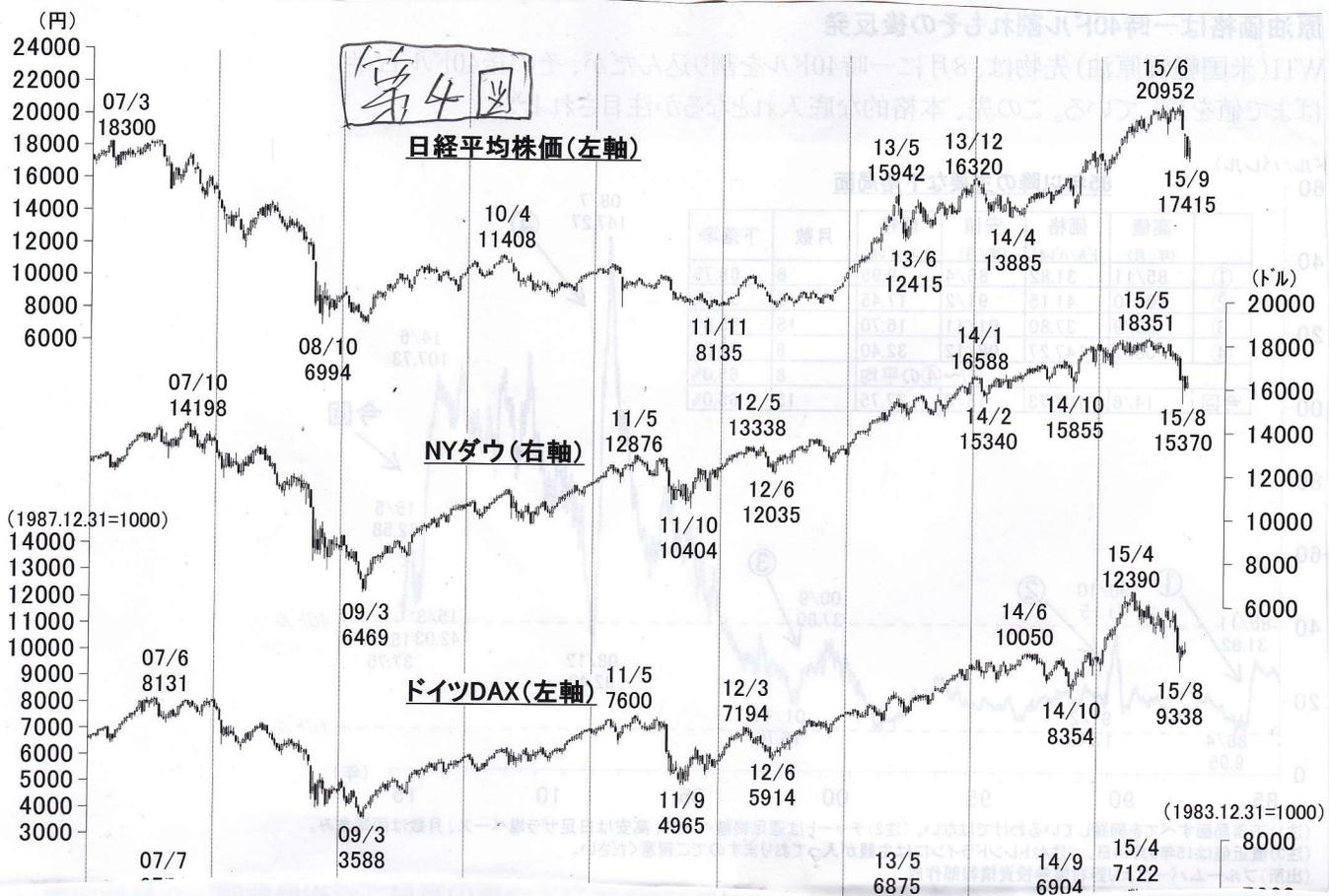


(注)データは日次で、直近は15年9月15日。野村証券の予想は9月10日時点。
 (出所)ブルームバーグより野村証券投資情報部作成



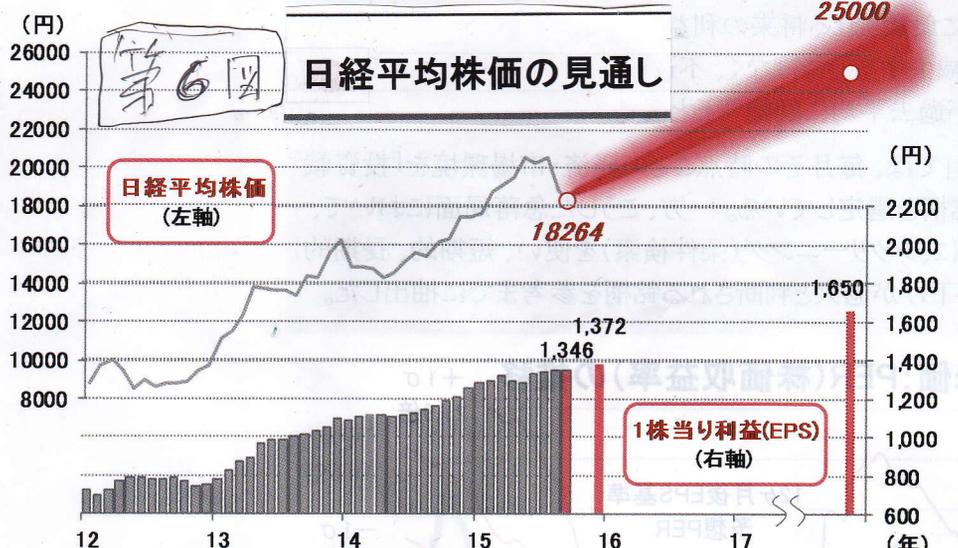
6月に07年高値を奪回
 ドル円相場は6月に、07年6月高値を奪回した。10年移動平均線が上向きに転じつ
 つあり、中長期での円安・ドル高トレンド入りの確度が高まったと考えられる。





EPSの上昇が続く中で株価は割安。中期的な株価上昇の見方は不変

日経平均株価1万8千円という水準は、PER (株価収益率) の水準が平均回帰するなどの一定の前提を置くと、14年のEPS (1株当たり利益) の実績とほぼ同じ値を1年後も想定することになる。企業の増益が続く中で、株価は割安と判断される。



(注) 日経平均株価の15年10月以降の数値は野村証券エクイティ・リサーチ部予想。1株当たり利益(EPS)は12ヶ月の先行予想で、例えば15年9月の1,346円は15年9月から12ヶ月間の利益合計の見通し。15年末までは東洋経済新報社予想。中期的なEPS水準(1,650円)は、年率10~15%程度で利益(EPS)が増加すると仮定して計算。直近の株価、EPSは15年9月11日時点。18264円を過去平均予想PER16.5倍で割ると1106円となり、14年度のEPS実績は1110円である。

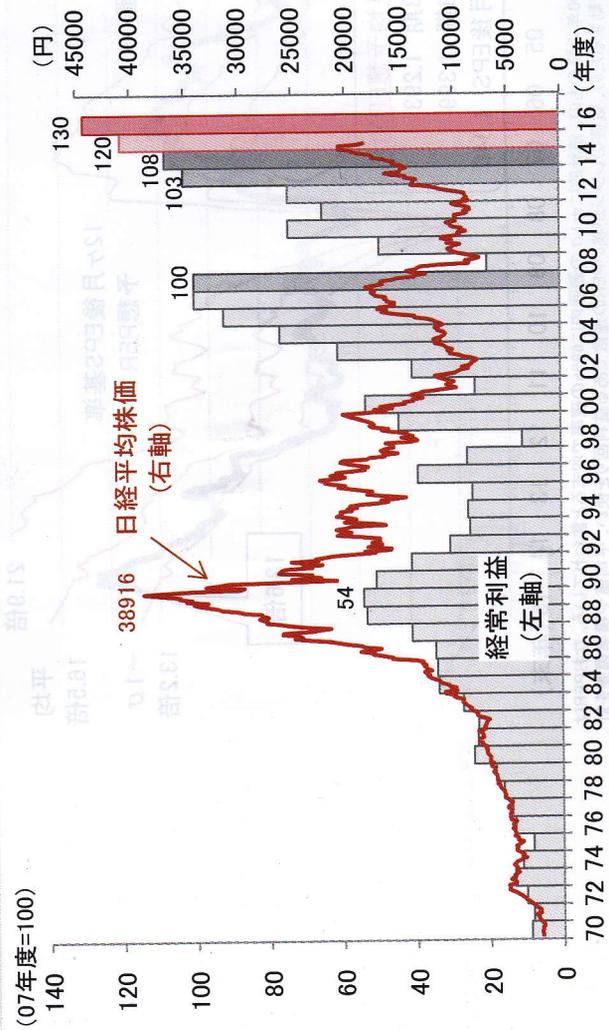
(出所) 野村証券エクイティ・リサーチ部、日本経済新聞社、東洋経済新報社などより野村証券投資情報部作成

第7図

企業業績の水準

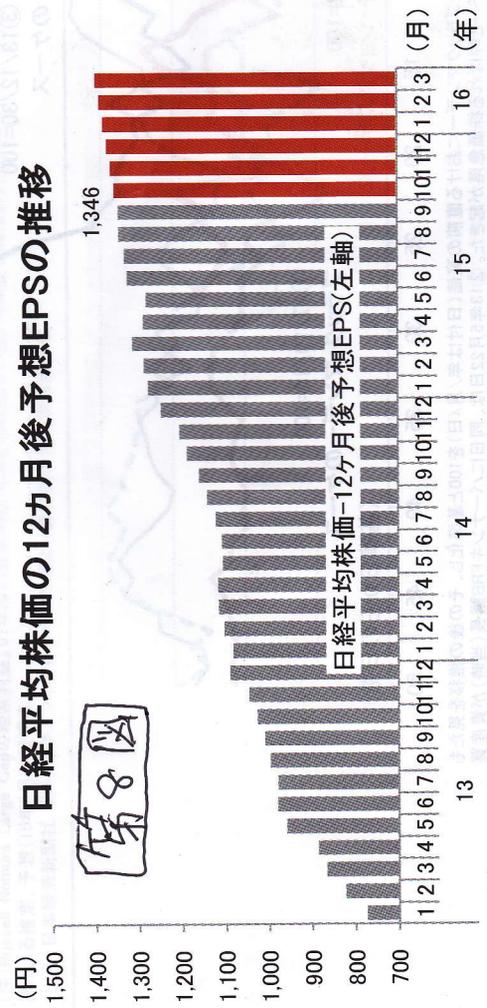
4期連続増益に挑む我が国の企業業績

我が国の企業業績は、12年度より増益軌道に復帰し、15年度には4期連続という長期連続増益の達成が期待される。国内では、所得雇用環境の好転、企業の投資意欲の復活、国外では好調な米国経済が日本企業の業績をけん引しよう。



第8図

日経平均株価の12ヶ月後予想EPSの推移



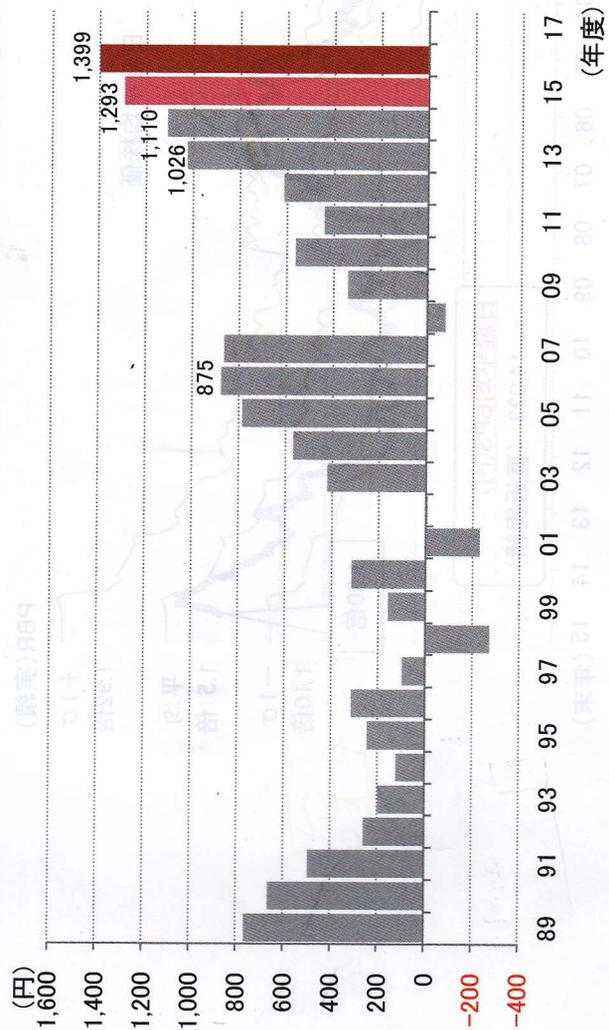
(注)12ヶ月後予想EPS(1株当たり利益)は、例えば15年9月の1,346円は15年9月から12カ月間の利益合計の月通し。15年度末までは東洋経済新報社予想。予想時点は9月11日。15年9月以降のEPS予想前提は、為替が121円/ドル、134円/エーロ、原油価格が55ドル/バレル。
(出所)野村證券エクイティ・リサーチ部、東洋経済新報社などより野村證券投資情報部作成

第9図

日経平均株価EPSの推移(年度)

過去最高EPSの連続更新が続く

日経平均株価の15年度EPSは、14年度比で10%台半ばの高い伸びが予想されている。内外需問わず幅広い業種が全体の利益増に貢献する。



(注)棒グラフの赤色の部分は東洋経済新報社予想(15年9月11日時点)。
(出所)東洋経済新報社、野村證券エクイティ・リサーチ部より野村證券投資情報部作成

3